

第28回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成24年3月29日（木）午後7時30分～午後9時25分

【場所】市役所5階 501会議室

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

谷 悟・千原 喜美・魚返 普子・川上 勝・小西 朋子・寶楽 陸寛・松村 千恵子・南 美鈴・
山田 淳子・渡辺 正直

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

井上・東畑・廣中

〈オブザーバー（公益財団法人河内長野市文化振興財団）〉

萬木・大久保

【配布資料】

- ・第28回河内長野市文化振興計画推進委員会次第
- ・資料1 第27回河内長野市文化振興計画推進委員会議事録
- ・資料2 河内長野市文化振興計画の概要（抜粋）
- ・資料3 「文化振興策の方向と具体策」に係る取組み状況
- ・資料4 「まちかどアート」（パンフレット）
- ・ラブリーニュース
- ・平成24年度 河内長野市文化振興財団 事業計画書 他

以上

井上課長

3月末の人事異動についてご報告します。担当の廣中が生涯学習課へ異動になり、部長の尾谷が生涯学習部理事に、新しい部長として大江が担当させていただきます。本市で事務局を担当させていただき、1年が経過しました。本日の案件としましては、委員会での今後の方針、ある一定の方向性を出していただき、平成24年度から進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

谷委員長

この委員会の役割として、このまちの文化振興に対する指針を明確にしていく必要があると思う。達成感が得られるまでは時間がかかる地味な基盤作業であるが、優先順位を決め、具体的なあり方に繋げるための方向性を明確にしていきたいと考える。文化振興については平成18年から審議されているが、河内長野市の現実に即して、如何なる項目に力を入れればよいのか、委員会の力を結集させて、考えていきたい。

まず、東畑主査から資料3「文化振興策の方向と具体策」に係る取組み状況について説明していただきたい。

東畑主査

<資料3「文化振興策の方向と具体策」に係る取組み状況について説明>

井上課長

資料3の実施・未実施については、文化振興計画に記載されている内容に照らし合わせて判断しております。また、実施については、該当していると判断した取組みについて記載しております。

谷委員長

資料3を作成していただいたことで、河内長野市の文化振興計画の実施状況を把握することができる。取組みやすい項目は実施しているが、どの程度、実施しているのか、質の問題を問うことも大切であろう。今回、整理をしてくれたことで、未実施の項目もあるが、少しずつ成果を出している事業もあることがわかる。だが、優先順位が高いと判断されても、取組みにくいものはやはり、実施されていない傾向が強い。それにより、偏りが出ていると言わざるを得ない。また、短期、中期、長期の区分をふまえた時間軸の認識も必要となろう。実践することが難しいからと言って、そのままにしておくと、計画の意義が損なわれてしまうので、打開策を検討することが大切ではないか。

松村委員

学校への出前事業を実施し、役に立ちたいと思っている。文化連盟と連携して継続していきたい。

谷委員長

ラブリーホールがアウトリーチ事業を実施し、点から面への展開を図っている。今後、文化連盟や様々な NPO も含めた継続した制度化が必要と思われる。4つのキーワード「教育立市」「文化都市」「未来都市」「人的支援」に係るものが、優先順位が高いと思われる。

寶楽委員

過去の議事録を見つめなおし資料を作成した。カテゴリー分けとして「まちづくり系の市民文化」「アートとしての伝統的な文化」に整理される。この2つのカテゴリーをもって、優先順位をつけていくと議論しやすいのではないと思われる。また、キーワードとして「連携」「仕組み」「価値転換」「切り口」に区分して考えてみた。議論の全ては盛り込まれていないが参考にしてほしい。

谷委員長

市の現状分析、寶楽委員の議事録の整理により、これまでの動きがよくわかる。アートについては様相が変わっている。2つの区分があることを念頭に指針に関する議論を進めることはよいことと思われる。それぞれの優先順位を決めて論理的な展開をしていくことが重要だ。

山田委員

三日市まちづくり交流会、街道再生プロジェクトに係わっている。「秋のだんじり祭り」について行政の関わりも難しいと思われる。「祭り」は神様の行事の一環とされている。だんじりで河内長野市を訪れる人は多く、地元の人も楽しみにしている。「だんじり囃子」の練習の仕方などを知っている人が次世代につなげるには今しかない。「おやこ劇場」で活動しているが、これから文化連盟との関わりも考えていきたい。

川上委員

この委員会は、どこの誰が推進しようとしている計画を、どうしようとしているのか、自分自身でこの委員会ではなければならないことを文書にまとめたいと思っている。お互いが新年度で何をするかを文書化することを提案したい。そうすることで、この委員会で推進することが見えてくるとと思われる。一つの事業を推進するとき、成果、評価、コスト（お金、関わった時間、人数）を考えることが必要と思われる。

小西委員

広報の催しには、たくさんあるが、参加できる人が限られる。皆が参加しやすい時間、場所になるように見直しも必要と思われる。

谷委員長

平成18年に策定された計画には、計画の担い手は河内長野市につながる「全て」とある。主管は市のふるさと文化課になり、この委員会は、市へ提言をおこなう使命が課せられていると思われる。私が委員長に就任する際、計画の評価業務を進める必要性について説明を受けた。だが、その前に再度、わがまちの文化振興の現状を整理、検討する必要性があるのではないかという意見を伝え、理解された経過がある。

川上委員から、自分たちで、アクティブに問題を見つけていきたいとの発言があった。平成18年度の計画策定から、ニーズ、現状も変わってきていると思われるため、その姿勢は大切であると言える。他に意見があればお願いしたい。

寶楽委員

河内長野市第4次総合計画にも「文化」が入っている。文化振興計画が「まちづくり」まで踏み込んでいるため、議論が難しい。市の担当部局が動いてもらいやすいような政策提言をしたい。「誰のためか」を決めて議論したい。また、この委員会で議論する内容を準備する「幹事会」を作ってもいいのではないかと思う。

谷委員長

委員会の開催時間だけでは、なかなか、討議しつくせないことは事実であり、本気で取り組もうとする限り、より、踏み込んだ姿勢で臨まなければ、成果はなかなか、あらわれないだろう。“行動する委員会”として、可能な限り、実施できるよう、検討したい。

寶楽委員

ラブリーホールの世界民族音楽祭に関わり、民族音楽を皮切りに地域文化を見直せたらと思ひ、ワークショップを実施し、アウトリーチ事業も考えている。皆が、持っているものを次世代につなげたいと思っている。

この委員会では、現状分析、評価をしていくのか、実行委員会を立ち上げて実施していくのか検討する必要がある。

川上委員

第1期の委員会は計画を中心に審議してきた。市民生活に計画が普及し推進されているかを議論していくものと思っていた。そこから、アーティストセンター等の提案も出てきた。今考えると、方向性も変わってきているし、議論についても変えていく必要があるかもしれない。

魚返委員

小学校へ出前事業を年2～3回実施している。大人が教えに行っていると思っていたが、子どもの純粹さ、自分たちの勉強不足など、様々なことに気付かせてもらえる。また、対

象についても、市民対象、超一流文化を切り離さずに、出来ることから学校と協力していく必要がある。文化や心のゆとりを大人の持てる力で、学校の空きスペースで、子どもだけでなく、大人、親子教室として協力していきたい。

寶楽委員

河内長野市ではまちづくり協議会、コミュニティースクール構想が始まるが、地域の子どもを地域で見えていくことになる。これからは、皆の力でコミュニティースクールでアート・伝統芸能を教えていくことになる。

生涯学習推進計画が策定され、文化振興計画と同様に、街づくりの発想やアームスレンジスの法則、地域に根ざした取組みも記載されている。今後、文化の切り口を狭めて議論していくのか、生涯学習推進計画のなかに文化振興計画をはめて考えていくのか議論する必要があると思われる。

川上委員

議論を進めていくときに、誰が進めていくのか、経済的な裏付けを誰が保障するのか、民間か行政かが推進するのか検討する必要がある。

子どもに伝統文化に接してもらうなら、本当の文化に接する機会を作してほしい。ダメなものダメと言い切れる人でないと文化は育たない。投げかける側の責任がある。

委員会で取り組もうとしたとき、どういう方法で、どういう経済的バックボーンがあるのかを考えると、この委員会に権限が必要になる。やりたいことと、やれることは違う。やるための方法を考えて出し合う必要がある。

南委員

伝統文化、宗教、まちづくり、市民文化などは今までに語りつくされてきた。空き店舗などの遊休施設の利用については、ラブリーホールのウインドーギャラリーの企画や、滝畑の現代アートの企画など提案した。また、小西委員の市の催しについては、富田林市で夜の7時30分からの講座に参加したが、講師、生徒の多くも河内長野の方であった。

寶楽委員

河内長野市にはアートに造詣の深い人が多くいる。河内長野市に繋ぎ止め、いかにその力を発揮してもらう仕組みをつくるのが計画の目的である。市の力が重要であり、さらに、それを支える市民が動きやすく、持てる力を発揮しやすい仕組みを作ることを検討する必要がある。

谷委員長

指針、方向性は理念的なものであるため、やや、抽象的にならざるを得ないが、アクションへと繋がりやすいものをまとめなくてはならない。市の予算ヒアリングは8月頃にある

が、この委員会が権限をもって、経済的なバックボーンを得ることは難しいのが現実である。担当課が文化を推進していくために頑張っても予算の獲得は厳しく、財団、企業他からの助成金、協賛金を含めたかたちで考える必要がある。

井上課長

予算上は厳しいです。予算については、何かに基づく計画性のあるものは獲得しやすい。一方、単発もの、裏付けのないものは評価しにくいいため、予算が付きにくい状況です。例えば、奥河内構想に絡めて来年度、谷委員長に、夏の事業を依頼しています。今後、計画の順位付け文化振興を図っていくことになれば、予算は付きやすいと思われれます。

川上委員

この委員会には、何の根拠もなく、行政の後押しもなければ、委員会でできることが限られてしまう。私たちは、事業をしたいとは言っていない。それが出来る、土壌、環境、人的な人材を育成していくためにどうしたらいいかを議論していくことが必要と思っている。何を推進するのか、推進するものとはなにか？

井上課長

単発事業については予算が付きにくい、という傾向を申し上げたところです。

谷委員長

市が奥河内構想を強く打ち出しているため、文化と繋げれば、展開させやすい場合も有り得ると思われる。また、優先順位をきっちり出して、河内長野市の暮らしを豊かにするための各種政策に文化をどう、からめていくか、総合的なビジョンの中に位置付け、戦略的に進めていくこともポイントになると思う。さしあたり、寶楽委員から提案のあった幹事会を実現し、その足がかりをつくりたい。今回のように、自発的に様々な提案をされることは素晴らしく、うれしい限りである。皆さんのお力で、この委員会をより、パワーアップさせていければと考えています。

井上課長

市の審議会は、通常、資料を見てもらい、了承してもらいが多い。財政ヒアリングでも来年度は、開催回数を減らすような指摘があったが、この委員会において意見をもらい提言してもらいものである状況を説明し、5回に増やしてもらいました。今後も、積極的な発言をお願いしたいと思います。